

## もっと、多くの市民の意見を！

～『登別市まちづくり基本条例』に関する  
ふれあい懇談会～

6月7日(火)・8日(水)の2日間、市民会館で市職員とまちづくり団体の方などが気軽に話し合う『ふれあい懇談会』が行われました。

この懇談会は、市が制定に向けて検討を進めている『登別市まちづくり基本条例』の素案について、説明や意見交換を行おうと、市内の経済団体や青年団体、婦人団体、文化団体、学校、PTAなどに呼びかけて開催したもので、合わせて52人が参加しました。

『登別市まちづくり基本条例』は、市民と行政による協働のまちづくりを推進するため、まちづくりの基本原則や市政運営の具体的な取り組み、市民・行政・議会の役割と責任を明らかにするもので、懇談会では、『財政運営のあり方』や『前文と本文との整合性』、『条例制定後の運用方法』などについて、活発な意見交換が行われました。

市は、今後、各地区の連合町内会との懇談会の開催を予定しており、さらに多くの市民と意見交換を行い、今年度中の条例制定に向けて作業を進めることにしています。



## 水遊びは楽しいな

～子育て講座『水とあそぼう』～

5月23日(月)、市民プールで子育て講座『水とあそぼう』が行われました。

この講座は、市が2・3歳の子どもとその保護者を対象に、親子で遊ぶ楽しさを体験し、子育ての輪や友だちの輪を広げてもらおうと開催したもので、26組52人が参加しました。

はじめに、市民プールのトレーナーの指導で準備体操をした後、水深を10センチに調節した多目的プールに移動。子どもたちは、ボールや水に浮くおもちゃで遊んだり、ビート板を使い足をバタバタさせたりと、思い思いに水と慣れ親しみ、久しぶりの水遊びに歓声をあげていました。

なお、市民プールでの同講座は、9月にも開催を予定しています。



## 泥の感触って気持ちいい

～ふれあい農園・田植え～

5月28日(土)、千歳町の『ふれあい農園』で幌別中学校区子ども地域交流プラザ運営委員会主催の田植えが行われました。

この催しは、学校週5日制に合わせて始まったもので、今年で14回目。幌別小学校、幌別東小学校、幌別中学校の児童、生徒、教職員、PTAなどから約230人が参加しました。

今回は、伊達市の農家から購入した『きらら397』の苗を使用。参加者は、同運営委員会の山田純一郎会長から「貴重な苗なので大切に真つすぐに植えてください」とのあいさつに続き、植え方の説明を聞いた後、早速、はだして田んぼに入り、作業を開始しました。

最初、「泥が気持ち悪い」などの声をあげていた参加者も、慣れてくると次第に「冷たくて気持ちいい」と泥の感触を楽しみながら、手足を泥だらけにして農作業に汗を流していました。

